
言語研究センター共同研究グループ経過報告

節周辺部の構造、素性の普遍性と個別性

佐藤 裕美／辻子 美保子／片岡 喜代子／加藤 宏紀／相原 昌彦

時制、アスペクト、モダリティ、否定、文タイプなどに関わる節周辺部の構造や節構造に関わる形式素性についての様々な言語に観察される現象の考察に基づき、節構造の普遍的性質、個別言語的特徴について研究を行っている。今年度前半は5月と7月に研究会を開催し、今年度末に刊行予定の本研究グループの研究成果をまとめた神奈川大学言語学研究叢書6の編集方針について話し合いを行い、掲載予定の各自の論文の執筆状況と内容の報告を行った。本書は、命題構成要素が節周辺部要素と如何に関わり、周辺要素の働きが節構造に如何に反映されるかを探り、更には文脈にお

ける発話としての働きも視野に入れた研究の成果である。時制やアスペクト、格素性の付値、数量詞解釈、否定現象から見た周辺部構造のあり方、そして疑問を含む文末助詞による命題態度表明などを、日本語・英語・中国語・スペイン語の分析をもとに論じることをテーマとしている。執筆者は、本研究グループメンバーの相原昌彦、片岡喜代子、加藤宏紀、佐藤裕美、辻子美保子、武内道子（本学名誉教授）と、上田由紀子（秋田大学教授）。10月に入稿し、予定通り出版に向けた作業が進捗している。